

平成26年度 全国体力・運動能力・運動習慣等調査の結果を受けて

(学校便り「さかえ」第24号 平成26年12月24日発行より抜粋)

■ 調査結果

①実技に関する状況について

【男子】

- ・握力，上体起こし，長座体前屈，立ち幅とびが全国平均を上回っている。
- ・反復横とび，シャトルラン，50メートル走，ソフトボール投げは全国平均を下回っている。
- ・総合評価では，全国平均をわずかに上回っている。

【女子】

- ・上体起こし，長座体前屈，立ち幅とび，ソフトボール投げが全国平均を上回っている。
- ・握力，反復横とび，シャトルラン，50メートル走は全国平均を下回っている。
- ・総合評価では，全国平均を下回っている。

【男女共通】

- ・上体起こし，長座体前屈，立ち幅とびが男女ともに全国平均を上回っている。
- ・反復横とび，シャトルラン，50メートル走が男女ともに全国平均を下回っている。

②質問紙調査の結果から

※全国平均と比較して

【男子】

- ・運動が好きな児童の割合が高い。
- ・運動が得意だと感じている児童の割合が低い。
- ・運動部（少年団等）に入っている児童の割合が低い。
- ・平日の運動時間は長く，休日の運動時間は少ない。
- ・体育の授業が楽しいと感じている割合が低い。

【女子】

- ・運動が好きな児童の割合がより低い。
- ・運動が得意と感じている割合がより高い。
- ・運動部（少年団等）に入っている児童の割合が低い。
- ・平日の運動時間は長く，休日の運動時間は少ない。
- ・体育の授業が楽しいと感じている割合が低い。

■ 体力向上に向けて

【課題】

- ・敏捷性，持久力，疾走能力を男女とも高める必要がある。

【対策として】

- ・保体委員会の集会活用を活用し，児童が主体的に全学年で楽しみながら体力向上を図る場面をつくっていく。（なわとび大会，ドッジボール大会等）
- ・体育授業において時間内に児童が実際に体を動かす時間を多くする内容を構成する。
- ・低学年から，体力テストに取り組むことで児童の興味関心を高めると同時に，種目に慣れる。
- ・休み時間等，校舎前庭を開放し，遊びを通して基礎体力の向上を図る。
- ・家庭においてもテレビ，ゲーム，パソコンの時間を減らし，休日には外で運動する生活習慣を身につける。